



自立して社会に貢献できる生徒の育成

# 南中だより



福山市立駅家南中学校

2026年(令和8年)

8月28日(金) NO.7

「何かをしたい人」10000人

「それを始める人」100人

「それを続ける人」1人

作家 中谷彰宏

2学期がスタートしました。朝、門に立っていると次々と生徒が元気よく登校してきます。いつもと少し違うのは、リュックに荷物がたくさんあることと画用紙がカバンからはみ出ている景色です。おそらく、夏休みの宿題をいっぱい詰めこんでの登校だったのでしょう。ひとまわり成長した生徒の誇りに満ちた顔つきで登校する姿を感じることができました。

さて、始業式の話は、中谷彰宏さんの言葉を引用しました。何かを成し遂げることは意外とシンプルで、大きな目標を立てず、毎日できる簡単なことを継続することが大切です。一方で、努力を継続するのは本当に難しいです。「今日から〇〇をやる!」と決心しても頑張りが続かず、いつの間にか決心したことすら忘れてしまって・・・という経験は誰にもあるはずです。

今日から2学期です。「何かをしたい人」はそれを始めてみてください。何もいない人は「駅家南中学校八つの校風」から一つ見つけて始めてみてください。

## 全中の報告!

第53回全日本中学校陸上競技選手権大会が8月20日山口県の維新みらいふスタジアムで行われました。本校から2年生橋本樹くんが800m、3年生小野蒼太くんが3000mに出場しました。当日は応援に行けませんでした。YouTubeでレースを見てゴール後の2人の姿に感動しました。実際に大会はどのような雰囲気だったのかインタビューしてみました。

校長：大変お疲れ様でした。どんな結果でしたか?教えてください。

小野：8分38秒69の4位でした。

橋本：予選7位でした。

校長：ゴール後は何を考えていましたか?

小野：きつい。(力を)だしきったあ〜!

橋本：自分のベストが出てなくて悔しい〜!

校長：中学生世代のトップアスリートが集う大会の雰囲気はどんなものですか?

小野：県大会と違って空気がピリついていて、会場の雰囲気だけで緊張しました。

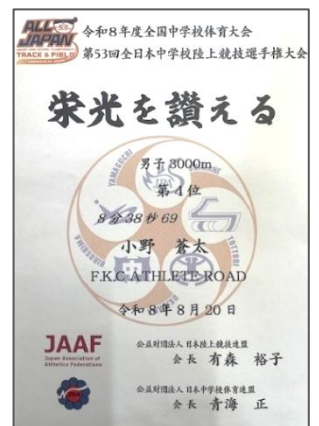
橋本：県では上位は取れても、会場には大物がいて上には上がいるんだなあと感じた。

校長：今後の目標を教えてください?

小野：1月の都道府県対抗駅伝で区間賞をとる

橋本：今後駅伝があるので優勝して全国大会に行きたい。将来は、みんなから尊敬されるランナーになりたいです。

この後、小野くんの成績を表彰しました。その賞状で、気づいたのですが大会会長が有森裕子さんでした。有森裕子さんは1992年バルセロナオリンピック銀メダル、1996年アトランタ銅メダルを獲得した元女子マラソン選手で日本におけるプロランナーの草分け的存在です。もっとも有名な名言が銅メダルを獲得した際に発した「初めて自分で自分を褒めたいと思います」という言葉です。この言葉は度重なるけがや苦難を乗り越えてたどり着いたゴールで結果以上に、そこに至るまでにプロセスや自分自身の頑張りを認める言葉として日本中に感動を与えました。今回のインタビューをした二人には、まだまだやらなければならないことはたくさんあるでしょうが、まずはこの夏の頑張りをしっかり褒めてあげたいです。



また、有森さん語録には、始業式の話と何らか結びついてしまうのでいくつか紹介しておきます。  
「何かできるようになりたい。何のとりえもない私は、人一倍努力しないと人並みにはなれない。それだけを考えて生きてきた。」

「プレッシャーは、自分自身がかけるもの。日々を自分にごまかしなく、精一杯生きれば関係ありません。」  
「何が起きて『せっかく』と考えよう。足を怪我しても『せっかく』の故障だから、神様が与えてくれた休養と考えよう。」

「一生懸命頑張っていると、いろんな人がいろんなチャンスをくれます。でも、一生懸命頑張らない人には、何もチャンスは来ません。」

この中に、皆さんの今の自分の姿に重なるものはありましたか？

## 吹奏楽部「金賞」「奨励賞」「銀賞」受賞

吹奏楽部は8月3日に行われた広島県吹奏楽コンクールにおいて「銀賞」、8月5日に行われた広島県東部地区吹奏楽祭りにおいて「金賞」＋「奨励賞（32校中3位）」を受賞しました。部員の皆さんは両コンクールとももう一つ上の賞を目標にしていたのですが、あと一歩及ばず残念です。

部長の岡田さんは「惜しくも代表選考会の切符を手に入れることはできませんでしたが、最後のコンクールでこのメンバーでいい演奏ができ、金賞をとれたことは部長として誇りに思います。みんな大好き！」副部長の今川さんは「最後のコンクールで初めての金賞がとれて今まで頑張ってきてよかった。」

当日、審査員からは「まるで画を見るような演奏でした。」「曲の持つ不安・恐怖・ストレス・開放・幸福がバンドの力でよく出ています。」という講評をいただきました。また、先日は暑い中での「サッサカ2026」において、オープニング演奏で会場を沸かせてくれました。西日が差す暑い中での演奏でしたが、みんなとてもかっこよく演奏できていてよかったですよ。これから EKIYAMIRAI 2026（9月12日）や文化祭（9月26日）などでの演奏が続きますが、最高のパフォーマンスを期待しています。

**ちょっといい話** 吹奏楽部顧問の小川先生からこんなお手紙を見せてもらいました。

小川先生へ

大きな帆を立てて あなたの手を引いて 荒れ狂う波にもまれ 今すぐ 風になりたい  
天国じゃなくても 楽園じゃなくても 小川先生に出会えた幸せを感じて 風になりたい

今この手紙を本番の3日前に書いています。心臓の音が聞こえるくらいみんな緊張しています。先生が表彰式を終えてこの手紙を読んでいるとき、私たちの結果はどうだったのでしょうか。今、先生はどんな表情をしているのでしょうか？どんな結果であったとしても、先生の指揮で全力でやり切ったことだけは間違いありません。先生との出会いは、今日まで一緒にくじけそうになりながら音楽をつくってきた時間は私たちの人生の宝物です。「風になりたい」の歌詞のように先生と出会えたからこそ私たちはここまで音楽を愛し、天国にいるくらい幸せで夢中な時間を過ごすことができました。厳しい練習の時も前を向かせてくれた先生に、いつも私たちを一番近くで見てくれた先生に、これからステージで特大の感謝をすべて音にしてぶつけてきます。私たちの音楽を特等席で聴いてくれて本当にありがとうございました！

駅家南中学校吹奏楽部幹部一同より



※ 吹奏楽部（小川先生）はとんでもない賞をとりました。絆という証（あかし）を・・・

## 科学技術部「サッサカ2026」頑張りました！



PTA 厚生部の皆さん、「サッサカ2026」での売店ブースの事前・当日準備・販売・片付けまで万全の態勢で臨んでいただき、本当にありがとうございました。また、PTA のブースの横では科学技術部の催し物も行われました。大本部長は「昨年より機体が安定してうまくできたと思います。来年は、後輩たちが、お客さんが満足するよう回転率を上げてくれると思います。」と語ってくれました。これからのロボコン大会や文化祭の展示も期待しています。